

令和3年12月8日

富士見市議会議長 齊藤 隆浩 様

文教福祉常任委員会  
委員長 川畑 勝弘

### 所管事務調査（行政視察）報告書

本委員会は、所管事務調査として先進地の視察を行い、調査を終了したので富士見市議会会議規則第109条の規定により報告します。

#### 記

- 1 実施期間 令和3年11月4日（木）
- 2 視察地及び調査事項 埼玉県戸田市教育委員会事務局（オンライン）  
「ICT教育・GIGAスクールの取組及び現状について」
- 3 出席委員  
委員長 川畑 勝弘                      副委員長 佐野 正幸  
委員 田中 栄志                      委員 熊谷 麗  
委員 木村 邦憲                      委員 篠田 剛  
委員 今成 優太
- 4 随行職員 議会事務局主事 戸谷 薫
- 5 同行職員 教育部 部長 林 みどり  
教育部 学校統括監 小林 正剛

（調査結果報告は、別紙とする。）

## <視察地及び調査項目>

埼玉県戸田市（オンライン）「ICT教育・GIGAスクールの取組及び現状について」

## <戸田市の概要>

戸田市は埼玉県南部に位置し、荒川を境に東京都に隣接しており、都心から20km圏の北部に当たる。東は川口市、西は荒川を隔てて和光市及び朝霞市、南は東京都板橋区、北はさいたま市及び蕨市に接している。

昭和41年10月1日に市制施行され、戸田市が誕生した。

首都圏の交通の要衝となっており、平成8年9月には人口10万人都市となり、令和元年6月には14万人を突破、令和2年1月1日時点の平均年齢は41.1歳となり、県内で一番若い都市である。

面積	18.19平方キロメートル
人口	140,952人（令和3年4月1日現在）
世帯数	67,183世帯（令和3年4月1日現在）

## 令和3年度予算

一般会計	54,426,000千円
特別会計	24,237,081千円

財政力指数 1.245（令和元年度）

### （1）調査事項の概要・経過・特徴等について

戸田市における「ICT教育<sup>\*1</sup>・GIGA<sup>\*2</sup>スクールの取組」は、産官学と連携したSEEPプロジェクト<sup>\*3</sup>を教育改革の重点とし、2016年より積極的に行っている。タブレットの一人一台を生かした学びとして、教師主導の「指導と管理」による「教具的利用」から、学習者中心の「学びと愛用」による「文具的活用」へと変化させていった。

### （2）具体的対応策・取組状況について

戸田市では、教育委員会にGIGAチームを作り、端末利用における様々な課題に即時に対応出来るよう、学校との連携を取っている。また、ICT活用の研修では、実践や研修の充実に加え、ベテランや中堅の授業力を生かす研修も行っている。サポート面においても、ICT支援員等を全校に配置し、環境面と指導面の両面で授業支援を行っている。

戸田市では、「GIGAスクール構想の実現」に向けて2つの段階に分けて取り

組んでいる。

#### ①第1フェーズ

- ・産官学と連携し、プログラミングやPBLを学ぶことで、ICTがマストアイテムだと位置付けた。
- ・学習者用デジタル教科書へのトライアルや校内オンラインの積極的活用、家庭との連絡を含めた校務のデジタル化（教師の働き方改革）の推進を行った。
- ・快適なネットワーク環境の構築やPC等ハードの整備や支援を行った。ネットワークの構築は困難なこともあり、トラフィックを監視しながら進めた。
- ・GIGAスクール構想についてのリーフレットを作成し、幅広く周知を行った。
- ・様々な学びを実現した（学校外での学びの充実・不登校、病気療養、障害など特別な支援が必要な児童生徒に対するきめ細やかな支援など）。

#### ②第2フェーズ

- ・ICTのマストアイテム化のその先の学びの質の向上を目指す努力の継続
- ・教育データの利活用（学びのカルテ、お薬手帳など）
- ・デジタルシチズンシップ教育の推進（触れさせない→安全に失敗させ主体的に学ぶ）
- ・学校と家庭のシームレスな学び（家庭学習のクラウド化、反転学習など）
- ・公立小・中学校でのSTEAM教育の基盤づくり（本物や一流のものに触れる機会の増加や、リーディングスキルの向上、未来を切り拓く子どもへの育成に必要なPBLの学びなど）
- ・多様なニーズに応じ、落ちこぼれも吹きこぼれも、誰一人取り残さない教育への取組

#### （3）効果・課題・問題・反省点について

戸田市では、ICT活用に際し、プロの力を活用し、迅速かつ着実に進めることができている。ICTは、有効であるが万能ではなく、技術よりも活用することが大事であることを伝え、指導者の技術を伸ばすことにもつなげている。オンラインが進んでいる学校ほど、自学自習が進んでおり、図書室を利用する子も多い。

課題としては、オンラインの場合、複数の資料を横に並べることや、求めるもの以外の情報が目に入らないといった「一覧性」と「俯瞰性」に弱点がある点や、時間短縮・効率化の道具として多用されると非効率になる場合もある点、また多様なニーズへの対応については指導や支援についてまだ課題がある。

※1 ICT教育とは、従来のアナログ形式で行っていた教育にデジタルやITテクノロジーを導入することにより、互いの利点を合わせてより良い教育を行う

## 教育方法

※2 GIGAとは、Global and Innovation Gateway for Allの頭文字をとったもので、「すべての人に世界的で革新的な入口を」という意味。GIGAスクール構想とは、学習者用の一人一台のPC端末と、高速の通信ネットワークを一体的に整備することで、多様な子どもたちに最適な教育を実現させる国の教育構想

※3 SEEPプロジェクトとは、第4次戸田市教育振興計画の理念を具体化したもの。Subject、EdTech、EBPM、PBLの4文字の頭文字をとったもので、「浸透する」の意味

① S: Subject (教科教育)

子どもたちにこれからの時代を生き抜くために必要な資質・能力を身に付けさせるために、教科の本質を捉えた授業改善を目指す。

② E: EdTech (Education×Technology)

「指導と管理」のPCから「学びと愛用」のPCとしたICTのマストアイテム化をはじめ、教育とテクノロジーの融合による新たな学びを推進する。

③ E: EBPM (Evidence-Based Policy Making)

教育政策シンクタンクを中心に教育の定量的データ及び定性的データの分析を行い、「経験と勘と気合」から脱却したエビデンスに基づく政策立案を行う。

④ P: PBL (Project-Based Learning)

社会に開かれた「誰かの何かの課題」を解決する活動を通して、子どもたちの未来を切り開く探究者としての資質・能力の育成を目指す。

(4) まとめ(指摘事項、本市における具体的活用法策、提案等)

戸田市の「ICT教育・GIGAスクール構想」に欠かせない産官学との連携は、とても魅力的であると感じた。教師の負担軽減にもつながり、多様なニーズへの対応にも役立つと考えられる。また、戸田市は、ICT活用に対するサポート体制が整っていると感じた。連携・研修・サポートが組織化されていることで、様々な課題へ迅速に対応することが出来ている。本市でもこのようなシステムを構築することが必要で、これにより、各校に配置されている支援員の負担も軽減することが期待できる。

戸田市の取組から学ぶことはとても多く、今後の本市におけるICT教育、GIGAスクール構想への取組に生かしていくべきと感じた。